

東舞子

2017/09/1 (9月号)

神戸市立東舞子小学校

平成29年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

主体的・対話的で深い学びを目指して～2学期のスタート～

子供たちの元気な声が学校に戻ってきました。36年間小学校に勤めている私にとっても、やはり子供たちの元気な姿が一番だと感じます。この夏休みも、全国各地で局地的な集中豪雨による河川の氾濫や土砂災害が報じられていましたが、改めて自然の猛威を感じるとともに日頃からの備えの大切さを胆に銘じている9月1日(防災の日)です。1学期の終業式で、「次に、みなさんと会うのは2学期の始業式の日です。その日には、全校児童全員が、元気な姿を見せてください。」と挨拶しましたが、お陰さまで今のところ大きな事故や怪我等の報告もなく、子供たちが元気に登校できたことを大変嬉しく思います。この夏休み中も地域では、ラジオ体操や盆踊り大会、また、各種のスポーツ活動や校区の巡視活動等、本当に様々な面で子供たちがお世話になりました。また、何より各ご家庭でしっかりと子供たちの安全を見守っていただいた保護者の皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

さて、この夏休みも、各種の研修会や講演会に参加してきましたが、やはり話題の中心は、2020年度から完全実施される次期学習指導要領の内容についてでした。今回の改定では、アクティブ・ラーニングという文言は姿を消しましたが、時代の変化に対して柔軟に対応できる「生き抜く力」を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現が、大きなテーマとして掲げられています。また、生き抜く力を育むという理念の具体化には、「生きて働く知識や技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力・人間性の育成」の3つの柱が目標として据えられています。例えて言うならば、野球のピッチャーをしていて、160km/時を超えるような球を投げられる選手がいるとします。けれども、いくら速い球が投げられても、試合に勝てるとは限らないということです。ゲームで活躍できるかどうかは、刻々と変化する試合の流れの中で、チャンスをものにできるかどうかにかかっており、そうした感覚や能力は実際にゲームを体験する中で身につく、育まれるということなのです。教科等を横断する汎用的なスキルの一つとして、コミュニケーション能力があります。私は、学校の教員をしていますが、どちらかというとコミュニケーションが苦手で、会話をしているにもかかわらず、すぐに途切れてしまい、相手を気まずい思いにさせることが度々あります。先日、「会話がとぎれない!話し方」という本を読んでいて、なるほどと思ったことが幾つかありましたので、ご紹介します。この本には、「会話は人間関係を築くうえで欠かせないもの。会話への不安を取り除き、もっと気軽に話せたら、毎日が充実してきます。」という文章で始まっていました。そして、たたみかけるように、「ふだん貴方は、どんな話し方をしていますか。ご自身の話し方のスタイルを点検してみてください。」と続き、会話の苦手な人は、思いついたら質問や自分の話を次々と話し、相手の興味や関心とは関係なく、話のネタが尽きたら会話が途切れると結んでいました。では、どのようにすれば会話が続くかということ、やればいいことは、ただ一つ!! それは、自分と相手の気持ちに目を向けること。会話をするときには、相手と自分の気持ちのキャッチボールをするつもりで…まずは、相手の話を共感しながら聞く姿勢(会話の基本は、相手の気持ちを聞いてあげること)が大切であると綴られていました。子供たちにも、人生を豊かにする能力の一つとして、是非身につけてほしいと思います。

さあ、2学期のスタートです。2学期は、音楽会や修学旅行(6年生)、自然学校(5年生)等の様々な学校(学年)行事が予定されています。一人一人の子供たちが、自己の目標を定め、友達との関わりの中で大きく育つ絶好のチャンスです。自分を高めるために努力し、その過程の中で仲間の良さを認めながら、達成感や成就感を味わうことができるような学びの場をつくっていくために、職員一同全力を尽くします。まだ、しばらくは残暑厳しい日が続きますが、子供たちの健康管理に十分留意していただきますよう、よろしくお願いたします。

校長 梅鉢 泰博